

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	社会学研究科委員長	作成部局	社会学研究科
-----	-----------	------	--------

A-1	社会学研究科の理念		変更の有無
	社会学研究科は、社会学および社会心理学の専門的かつ先端的研究の推進、専門的研究能力と技能の教育・育成、研究成果の社会への還元を通して、自由で自律的な個人から成る、開かれたよりよい社会の実現に寄与することを基本理念とする。		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。
A-2	社会学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)	社会学研究科の目的(Webサイト上)	変更の有無
	社会学研究科は、社会学および社会心理学の先端的研究を推進するとともに、博士課程前期課程では、社会学または社会心理学の専門的知識と技能を身につけ、適切な研究テーマと課題の設定、および論理的かつオリジナルな分析を行なう能力と技能を身につけることによって、自らの専門性を通して、幅広く社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。さらに博士課程後期課程では、社会学または社会心理学の専門的研究に従事することによって、専門分野の研究の発展に寄与し、社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。	社会学研究科は、社会学および社会心理学の先端的研究を推進するとともに、博士課程前期課程では、社会学または社会心理学の専門的知識と技能を身につけ、適切な研究テーマと課題の設定、および論理的かつオリジナルな分析を行なう能力と技能を身につけることによって、自らの専門性を通して、幅広く社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。さらに博士課程後期課程では、社会学または社会心理学の専門的研究に従事することによって、専門分野の研究の発展に寄与し、社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。
	めざす学生像		変更の有無
	博士課程前期課程では、社会学または社会心理学の専門的知識と技能を身につけ、適切な研究テーマと課題の設定、および論理的かつオリジナルな分析を行なう能力と技能を身につけることによって、課程修了後、自らの専門性を通して、幅広く社会に貢献できる大学院生[を養成することが教育目標]。博士課程後期課程では、課程修了後、社会学または社会心理学の研究に従事することによって、専門分野の研究の発展に寄与し、社会に貢献できる大学院生[を養成することが教育目標]。		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。
	学位授与方針(ディプロマ・ポリシー;DP)		変更の有無
	博士課程前期課程 1. [態度・関心]社会学または社会心理学という専門性の見地から、さまざまな社会現象や社会問題を説明・理解しようとする強い意志と態度を身につけ、専門性にもとづいて、幅広く社会に貢献しようとする強い意欲を身につけている。 2. [知識・思考]社会学または社会心理学という専門性の見地から、現実社会を分析していくための専門的知識と専門的思考力、社会調査についての専門的知識を身につけるとともに、高度に専門分化した知識をより大きな文脈のなかに位置づけ、関連づけるために必要な幅広い知識と柔軟な思考力を身につけている。 3. [技能・表現]ジェネリック・スキル(ICTを用いた情報収集・分析・評価の能力、論理的・批判的な思考能力、数量的スキル、表現・伝達能力など)を、社会学または社会心理学という専門性のレベルで活用する力を身につけているとともに、同様のレベルで、日本語および一つ以上の外国語によってコミュニケーションするためのスキルを身につけている。さらに、社会調査についての専門的な技能を身につけている。 4. [統合的能力]上記の1～3の学習成果を総合的に活用して、適切な研究テーマと課題を自ら設定し、先行研究にもとづいて、論理的・実証的な分析を行い、オリジナルな仮説的結論を提示する能力と技能を身につけている。 参考:「修士学位論文の審査基準」「修士学位取得プロセス(モデル)」 博士課程後期課程 1. [態度・関心]自らの専門的研究を進展させ、社会学または社会心理学の研究に従事していこうとする強い意志と態度を身につけ、専門的研究を通して社会に貢献しようとする強い意欲を身につけている。 2. [知識・思考]自らの専門的研究を進展させていくために必要な専門的知識と専門的思考力を身につけるとともに、自らの専門的研究を他の関連する専門的研究の文脈のなかに位置づけ、関連づけるために必要な幅広い知識と柔軟な思考力を身につけている。 3. [技能・表現]ジェネリック・スキルを、自らの専門的研究を進展させるとい見地から活用する力を身につけているとともに、同様の見地から、日本語および一つ以上の外国語によってコミュニケーションするためのスキルを身につけている。 4. [統合的能力]上記の1～3の学習成果を総合的に活用して、当該の専門分野における研究を確実に前進させる、優れた研究業績を発表する能力と技能を身につけている。 参考:「博士学位論文の審査基準」「博士学位取得プロセス(モデル)」		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。

2018年度 自己点検・評価【社会学研究科】

A票

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	社会学研究科委員長	作成部局	社会学研究科
-----	-----------	------	--------

A-1.「理念」、A-2.「目的」「めざす学生像」「学位授与方針」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「社会学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」は、「A-1. 社会学研究科の理念」に沿い、めざす方向性を適切に表現しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「社会学研究科の目的(Web サイト上)」は、A-2「社会学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」に沿った内容であり、社会に対して分かりやすい表現になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	「めざす学生像」と「学位授与方針」は、A-2「社会学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」、「社会学研究科の目的(Web サイト上)」と整合性が取れ、目的の実現に向けて相応しい内容となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針は、学位授与にあたり、学位授与基準および当該学位に相応しい学習成果を明確に示しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	学位授与方針に基づく学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認6】	目的、「めざす学生像」、「学位授与方針」は周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	社会学研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	社会学部自己評価委員会および大学院連絡会での審議を経て、毎年3月の社会学研究科委員会において審議・承認する。
	決定・判断時期(いつ)	毎年3月
	検証エビデンス	社会学研究科委員会の記録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年 3月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	社会学部自己評価委員会および大学院連絡会において、現状を把握の上、課題を整理する。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他()
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

2018年度 自己点検・評価【社会学研究科】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	社会学研究科委員長	作成部局	社会学研究科
-----	-----------	------	--------

教育研究目標		変更の有無
目標1	(タイトル) 研究方法や研究対象の専門化にもとづきながら、それらを総合的に応用し、複雑化する現代社会を分析できる人材を育成する。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
	(狙い・内容) 社会学・社会心理学的研究は、研究方法(理論的研究、実証的研究、量的研究、質的研究など)や研究対象によって、ますます専門化が進んでいるが、このような専門化にもとづきながら、それらを総合的に把握することのできる力を身につけることによって、複雑化する現代社会を総合的に分析できる人材を育成する必要がある。	
目標2	(タイトル) 論文執筆や外国語によるプレゼンテーションのための教育プログラムによって、国際的に通用する研究に貢献できる人材を育成する。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
	(狙い・内容) 論文執筆の技能を向上させるとともに、外国語によるプレゼンテーションや論文執筆を指導することによって、日本国内においてばかりでなく、国際的に活躍できる人材を育成する。	
目標3	(タイトル) 博士学位(課程博士)取得に至るまでの段階・プロセスをモデル化するとともに、「博士学位キャンディデイト」を授与することによって、博士学位(課程博士)の取得を促進する。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
	(狙い・内容) 学位取得の段階・プロセスをモデル化することによって、論文や学会発表を積み重ねながら、それらを学位論文の執筆へとつなげていくことが可能になる。また「博士学位キャンディデイト」の授与は、一定の条件を設けることによって、学位論文執筆に先行する目標となるとともに、授与後に(学位論文提出までの)期限を設けることによって、学位論文の提出を促進し動機づけるものである。	

A-3. 「教育研究目標」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「教育研究目標」は、A-2「目的」、「めざす学生像」の実現に向けて、相応しい内容であるか、適切な表現であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「教育研究目標」は、教育の質向上に向けた意欲的な内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	「教育研究目標」は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	社会学研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	社会学部自己評価委員会および大学院連絡会での審議を経て、毎年3月の社会学研究科委員会において審議・承認する。
	決定・判断時期(いつ)	毎年3月
	検証エビデンス	社会学研究科委員会の記録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年3月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定:年月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	社会学部自己評価委員会および大学院連絡会において、現状を把握の上、課題を整理する。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
		<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他()
	判断根拠	社会学部自己評価委員会および大学院連絡会での審議内容
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	社会学研究科委員長	作成部局	社会学研究科
-----	-----------	------	--------

A-4	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー;CP)	変更の有無
	<p>社会学研究科は、学位授与の方針(ディプロマポリシー)にもとづいて、以下の科目を系統的に配置する。</p> <p>「社会学研究演習」(指導教員・副指導教員) 社会学または社会心理学という専門性にもとづいた態度・関心、知識・思考を身につけるとともに、適切な研究テーマと課題を自ら設定し、論理的・実証的な分析を行い、オリジナルな仮説的結論を提示する能力と技能を身につけるための科目(DP-1、2、4)</p> <p>「セオリー/モデル系」科目(「社会学理論講義A・B」「社会心理学講義A・B」等) 特定の領域・方法に偏ることなく社会的ならびに社会心理学的発想の基礎を幅広く習得し、柔軟な思考力を身につけるための科目(DP-2)</p> <p>「フィールド/メソッド系」科目(「社会学特殊講義A～J」「社会学特殊研究A～J」) より専門的で、領域や方法に焦点をあてた知識や技能を身につけるための科目(DP-2、3)</p> <p>「リサーチ/データ/プレゼンテーション系」科目(「社会調査論」「フィールドワーク演習」「社会統計学Ⅰ～Ⅲ」等) 社会調査に関する知識・技能・分析方法を身につけるための科目(DP-2、3)</p> <p>オプションプログラム 「先端社会講義A～J」「先端社会研究A～J」 3つの系をバランスよく身につけるための科目(DP-2)、英語でのプレゼンテーション技能を身につけるための科目(DP-3)、学術論文の執筆方法を身につけるための科目(DP-4)</p> <p>参考:「カリキュラム/プログラム体系図」</p>	<p><input type="checkbox"/>有り <input checked="" type="checkbox"/>無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>

A-4. 教育課程の編成・実施方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	教育課程の編成・実施方針は、A-2「めざす学生像」、「学位授与方針」、A-5「学生の受け入れ方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教育課程の編成・実施方針は、A-3「教育研究目標」の達成に向けて相応しい内容となっているか、表現は適切か。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教育課程の編成・実施方針は、教育課程の編成や、教育内容、教育方法等に関する考え方を明確に示しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針の内容を実現するために、教育課程の編成・実施方針は適切な内容となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	教育課程の編成・実施方針は周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	社会学研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	社会学部自己評価委員会および大学院連絡会での審議を経て、毎年3月の社会学研究科委員会において審議・承認する。
	決定・判断時期(いつ)	毎年3月
	検証エビデンス	社会学研究科委員会の記録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年3月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定:年月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	社会学部自己評価委員会および大学院連絡会において、現状を把握の上、課題を整理する。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	社会学部自己評価委員会および大学院連絡会での審議内容 社会学的な見直し(→A票変更点記述シートを作成した。) 今後見直す予定である。(見直し計画:) その他()
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	社会学研究科委員長	作成部局	社会学研究科
-----	-----------	------	--------

A-5

学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー;AP)	変更の有無
社会学研究科は、博士課程教育で培っていかうとする能力に応じて、以下の条件を満たしている者に広く門戸を開いている。 博士課程前期課程 1. [態度・関心]さまざまな社会現象や社会問題に強い関心を持ち、社会学または社会心理学という専門性見地から、それらにアプローチすることを学習しようとする意欲と見通しをもっている。 2. [知識・思考]社会学または社会心理学に関する基礎的レベルの知識と思考力を持ち、論理的かつ実証的な思考や判断ができる。 3. [技能・表現]社会学または社会心理学に関する基礎的レベルで、ジェネリック・スキルを活用でき、同様のレベルで、日本語および一つ以上の外国語によって、コミュニケーションするためのスキルを身につけている。 4. [統合的能力]上記1～3の学習成果を総合的に活用して、社会学または社会心理学に関する基礎的レベルで、自ら課題を発見し、その課題を分析し解決することができる。 博士課程後期課程 1. [態度・関心]社会学または社会心理学に関する専門的研究に着手しようとする強い意欲と態度を持ち、それを展開させていくための十分な見通しをもっている。 2. [知識・思考]社会学または社会心理学に関する専門的研究に着手し、それを展開させていくために必要な専門的知識と専門的思考力を身につけているとともに、高度に専門分化した知識をより大きな文脈のなかに位置づけ、関連づけるために必要な幅広い知識と柔軟な思考力を身につけている。 3. [技能・表現]社会学または社会心理学に関する専門的研究に着手し、それを展開させていくために必要なレベルで、ジェネリック・スキルを身につけているとともに、同様のレベルで、日本語および一つ以上の外国語によってコミュニケーションするためのスキルを身につけている。 4. [統合的能力]上記の1～3の学習成果を総合的に活用して、社会学または社会心理学に関する専門的レベルで、適切な研究テーマと課題を自ら設定し、先行研究にもとづいて、論理的・実証的な分析を行い、オリジナルな仮説的結論を提示する能力と技能を身につけている。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。

A-5. 学生の受け入れ方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学生の受け入れ方針は、A-2「学位授与方針」、A-4「教育課程の編成・実施方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	学生の受け入れ方針は、理念・目的、教育研究目標を踏まえ、入学時に求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の受け入れ方針と、実際の学生募集方法、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生の受け入れ方針は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	社会学研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	社会学部自己評価委員会および大学院連絡会での審議を経て、毎年3月の社会学研究科委員会において審議・承認する。
	決定・判断時期(いつ)	毎年3月
	検証エビデンス	社会学研究科委員会の記録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年3月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定:年月)
検証プロセス	検証方法(どのように)	社会学部自己評価委員会および大学院連絡会において、現状を把握の上、課題を整理する。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他() </div>
	判断根拠	社会学部自己評価委員会および大学院連絡会での審議内容
周知・公表方法		<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input checked="" type="checkbox"/> その他(入学試験要項)

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日：2019年2月22日

責任者	社会学研究科委員長	作成部局	社会学研究科
-----	-----------	------	--------

A-6

学生支援に関する方針		変更の有無
社会学研究科は、修学、生活および進路にかかわる問題をかかえる大学院生に対して、研究科副委員長、研究科委員長補佐、指導教員、副指導教員および事務室が連携して、支援を行う。		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
修学支援	指導教員および副指導教員を中心に、履修および単位修得に関する個別的相談と教育的指導を行う。大学院生サポートプログラムによって、各種の修学支援を行う。留年者および休・退学者についての状況を把握し、必要な支援を行う。障がい学生については、総合支援センターと連携しながら、授業などについて、必要な措置をとる。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
生活支援	学生生活上の問題について支援を必要とする大学院生を対象に、研究科副委員長、研究科委員長補佐、指導教員、副指導教員および事務室が連携し、それぞれの状況に応じた相談・指導・支援を行う(学生相談室の案内を含む)。とくに経済的問題については、各種奨学金の案内を行う。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
進路支援	キャリアセンターが実施するキャリアガイダンス、各種支援セミナーの告知を行う。大学院生サポートプログラムセミナーを通して、就職活動の仕方や研究職を目指すために必要な心得・技能などについてガイダンスを行う。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	社会学研究科委員長	作成部局	社会学研究科
-----	-----------	------	--------

A-6. 学生支援に関する方針について、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学生支援の方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえた内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	方針に沿って、修学支援、生活支援、進路支援のための仕組みや体制を整備し、適切に運用しているか。 (下記のことが明らかであることに留意する。) <修学支援> ・留年者及び休・退学者の状況把握と対処 ・学生の能力に応じた補習・補充教育の実施 ・障がい学生に対する修学支援の実施 ・奨学金等の経済的支援の実施 <生活支援> ・学生相談室等、学生の相談に応じる体制の整備、学生への案内 ・各種ハラスメント防止に向けた取り組み	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の進路支援は、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施の点から取り組んでいるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、教職員で共有されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	社会学研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	社会学部自己評価委員会および大学院連絡会での審議を経て、毎年3月の社会学研究科委員会において審議・承認する。
	決定・判断時期(いつ)	毎年3月
	検証エビデンス	社会学研究科委員会の記録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年3月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定:年月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	社会学部自己評価委員会および大学院連絡会において、現状を把握の上、課題を整理する。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他 () </div>
	判断根拠	社会学部自己評価委員会および大学院連絡会での審議内容
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input checked="" type="checkbox"/> その他(社会学研究科委員会の記録)	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	社会学研究科委員長	作成部局	社会学研究科
-----	-----------	------	--------

A-7	教員像		変更の有無
	キリスト教主義教育にもとづいた関西学院大学の理念と目的、そして社会学研究科の理念と目的を十分に理解し、必要とされる専門領域できわめて優れた研究能力と研究業績を有すると同時に、博士課程(前期課程および後期課程)教育に対する強い熱意と、大学院生指導における高い能力・資質そして実績を有する者。		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>

無しの場合どのように設定するか?	責任主体・組織	
	設定方法	
	設定見込み時期	

教員組織の編制方針		変更の有無
1. 教員は、大学院指導教員の任用基準にもとづいて、博士課程前期課程および後期課程に配置される。 2. 教員は、専門分野(社会学または社会心理学)、また教育課程に関わる区分(「セオリー／モデル」「フィールド／メソッド」「リサーチ／データ／プレゼンテーション」の3つの系)にしたがって、それぞれの運営に責任を持つ。 3. 研究科の運営に求められる機能(入試制度、FD、その他諸問題)にしたがって、各種委員会を組織するとともに、研究科委員長および副委員長がこれを統括し、最終的な研究科の意思は研究科委員会で決定する。		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>

A-7. 教員像、教員組織の編制方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認			チェック欄
【確認1】	教員像は、教員に求める能力・資質、教育に対する姿勢等を明確にしているか。		<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教員組織の編制方針は、組織的な教育を実施する上において、必要な役割分担や規模(人数)、教員の専門分野やスキル構成、責任体制、を明確にしているか。		<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教員像・教員組織の編制方針は教職員で共有されているか。		<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	社会学研究科委員会(議長:研究科委員長)	
	検証手続き(どこで)	社会学部自己評価委員会および大学院連絡会での審議を経て、毎年3月の社会学研究科委員会において審議・承認する。	
	決定・判断時期(いつ)	毎年3月	
	検証エビデンス	社会学研究科委員会の記録	
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年 3月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)		
検証プロセス	検証方法(どのように)	社会学部自己評価委員会および大学院連絡会において、現状を把握の上、課題を整理する。	
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他()
	判断根拠	社会学部自己評価委員会および大学院連絡会での審議内容	
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input checked="" type="checkbox"/> その他(社会学研究科委員会の記録)		

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	社会学研究科委員長	作成部局	社会学研究科
-----	-----------	------	--------

(ご参考)

＜評価専門委員会・第三者評価結果＞ 2017年12月22日公示

- ・ 適切に自己評価が行われており、評価できます。(A)
- ・ 適切な自己評価がなされており、大いに評価できます。(D)
- ・ 学生支援の方針についての「周知・公表」は「研究科委員会の記録」のみですが、今後は学生への周知についても検討することが期待されます。
- ・ 教員像は、大学の管理・運営についての知識及びそれに対する姿勢についての記述が乏しいようです。「帳票作成の手引き」に示されている＜確認のポイント＞を参考に検証することが望まれます。(E)
- ・ いずれの項目についても、適切な自己評価がされており、評価できます。(H)
- ・ 適切性の検証が実施されており、評価できます。(J)

＜評価専門委員・所見記入欄＞

- ・ 各種方針に関して適切に検証が行われています。(B)
- ・ 適切な自己点検の検証が行われており、評価できます。(C)
- ・ 定められた体制、プロセスに基づいて適切な検証がなされているように察します。(D)
- ・ 適切に検証されています。(E)
- ・ いずれの項目も適切と評価できます。(F)
- ・ 各方針において適切性の検証体制が明確になっていることが評価できます。(G)
- ・ 継続的に変化はありませんが、総括シートの行動計画で目標 1 および 2 で未達成となっている点の検証が望まれます。(H)